

平成29年度 事業報告書

特定非営利活動法人 応援のしっぽ

1 事業の成果

東日本大震災被災地域における手しごとを軸としたコミュニティへの運営・販売促進支援において、東日本大震災被災地域の仮設住宅住民や在宅避難者たちの形成した、多くの手しごとコミュニティに対して、販売・情報窓口として機能している。特に、相談事業を行っていることからそれぞれのコミュニティ内部の事情に詳しく、また、販売支援も行っていることから、手しごと商品販売のデータなども蓄積している。今まで活動してきた手しごとコミュニティ、そして今後できる可能性がある復興公営住宅の手しごとコミュニティが、何らかの形で生き残り、少子高齢化・また大規模災害時のコミュニティ形成から自立までの運営手法としてモデルとなることを期待されている。

昨年に続き、手しごとコミュニティを取りまとめ、組合のような互助組織を目指すことにより、メディアにも取り上げられている。経済的半自立半福祉のコミュニティ運営の道に寄り添う組織であるために、常に周囲を巻き込み、応援者を作り続ける必要があるが、今年度に入り、コープ共済連への働きかけにより、来年度の手しごと製品の受注見込みとなった。全国のコープ共済を採用している各生協のノベルティとして、また1mこーすけ（コープ共済キャラクター）のイベント用服の制作など、受注は多岐に渡る。被災地の各コミュニティは、まずは自分たちの商品、そして当法人がまとめる仲間と一緒に作る商品、そして、個別受注内職などによる分散受注を行うことにより、共倒れのリスクを減らしつつも、独自商品も制作していくという誇りを持てるようになっていく。

城南仙台高校など高校生からの協力も得られるようになった。ポスター制作やチラシ制作など。

各分野、各地域の民間非営利活動への運営支援、および個人・企業からの支援の促進事業において、復興公営住宅における、孤独死や、近隣住民たちとの心理的な壁を壊すべく、新しいコミュニティ形成支援を引き続き行った。手作りワークショップを軸として、ステップアップも可能であり、男性も参加できるように工夫することで、震災、仮設撤退、と2度にわたってのコミュニティ崩壊を乗り越え、今後の人間関係の構築の一助となるような活動を行っている。

団地会長からの言葉として、おかげさまでワークショップ参加者からの孤独死は出ていない、というものがあるが、喜んでよいのか、悲しんでよいのか。ワークショップ参加を通じて、まずは顔見知りから始まり、声掛けに進み、自治会の核となり、自立運営ができるような仕組みを目指している。今年度は、コミュニティ形成にいちばん大切な、継続開催ができた。今後は、顔をあわせる場所を維持し、自立運営のためのサポーターを募り、ボランティア参加を促し、「自分たちで」という気概を持てるように支援していく。

また、今年度より、新しくシングルマザーや要介護親・障害児を持つ女性を対象に、仕事創出も行っている。まずは、幼稚園や保育園で必要とされる指定制作物（靴入れ、パジャマ入れなど）を受注し、地域で地域を支えていく仕組みを模索している。

サイト名「はじめてのしっぽ」をオープンし、細く長く地域支援の循環の仕組みを根付かせていく。

2 事業に関する事項

平成29年12月1日～平成30年11月30日

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
①各分野、各地域の民間非営利活動への運営支援、および個人・企業からの支援の促進	①応援ポータルサイト「応援もなか」運営 ②手作りワークショップ開催	平成29年12月1日～平成30年11月30日	石巻市	3人	復興公営住宅内外の住民約1000名	3,340
②東日本大震災被災地域における手しごとを軸としたコミュニティへの運営・販売促進支援	①応援もなか登録コミュニティ団体運営相談 ②手しごと受注発送センター ③手しごとカタログ発行	平成29年12月1日～平成30年11月30日	東京都、宮城県、福島県、岩手県	30人	被災地活動小規模団体のスタッフ、約400名	3,305
③民間非営利活動と協働するキャリア教育活動	現在活動なし					
④その他第3条の目的を達成するために必要な事業	現在活動なし					

(2) その他の事業はありません。